

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム りんどう

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500130		
法人名	株式会社 神山		
事業所名	グループホーム りんどう		
所在地	〒028-3172 岩手県花巻市石鳥谷町北寺林11-1403		
自己評価作成日	令和3年1月6日	評価結果市町村受理日	令和3年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の生活習慣に合わせ、家庭的な雰囲気の中で共同生活を送ってもらっている。余暇時間には、お散歩やドライブ、室内で様々なレクリエーションや趣味活動など、楽しく生活が出来るように支援している。出来る方には、洗濯物量みや調理の手伝いなどを職員と一緒にやってもらい、意欲に維持・向上に努めている。利用者の誕生日には、食べたい物を聞き、職員が付き添いのもと、外食に出かけている。希望があれば家族も参加してもらい思い出を共有できるように努めている。日頃から、利用者の状態に変化がないか、観察をし、変化があった場合には家族や主治医に連絡をできるようにしている。怪我や事故があった場合には対策をしっかりとて、再発防止に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、隣接する特別養護老人ホームと共に、夏には“石鳥谷花祭り”の花火が間近に見える見晴らしの良い高台に位置している。広い敷地の中には野菜畑や花壇があり、利用者は職員と一緒に野菜を育てたり、花壇の手入れや散歩を楽しんでいる。コロナ禍で外出に制約があるものの、少人数毎に出掛け、お花見、新緑、紅葉狩りを車窓から楽しんでいる。利用者の希望に沿って墓参りや住んでいた家を見に行ったりするなど、外出支援にも細やかに取り組んでいる。室内でも様々なレクリエーションや趣味活動を通し、意欲の維持・向上を支援し、家庭的な雰囲気の中で、利用者それぞれが生き活きと過ごせるように努めている。また、地域との繋がりも良好で、地域の「自主防災会」組織に加入し、協定書を交わし避難訓練にも協力をいただくなど、幅広い交流に努めている。利用者の日頃の暮らしぶりや行事の様子を四半期ごとに発行する広報紙「りんどうタイムズ」に掲載し、家族にお知らせし好評を得ている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年1月29日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心やすらぐ・温かい・ふれあいを」を事業所理念とし、職員の目の届く場所に掲示し、理念の共有に努めている。	事業所の理念「心やすらぐ 温かい ふれあい」を基に職員の行動指針を定め、玄関の正面に大きく印字して張り出すとともに、A4判サイズの理念等を職員の目の届くところに掲示するなどして、共有に努めている。今年は休んでいるが、昨年までは職員一人一人が行動目標を立て、振り返りをしながら理念の実践に努めていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練などでは、地域の防災ボランティアに参加してもらい交流を深めている。退所された利用者の家族が来訪し、野菜をくれたり、世間話をしたり今でも関係が続いている。	コロナ禍の前は、地域の文化祭へ出品し見学に出掛けたり、小学校の運動会の総練習を見に行っていた。また、夕涼み会には、地域の子も達や家族連れで事業所に来てくれたが、現在は困難な状況にある。地域の「自主防災会」組織に加入し避難訓練時に協力を頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内で事故があった場合など、家族に連絡し認知症の特徴や再発防止対策など説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でいただいた意見など施設の職員会議で話し、取入れ、サービス向上に活かしている。	体調に差支えない利用者、家族、地域の代表者の方々、市、地域包括支援センター職員と、多くの方々の参加を得て、運営上の意見等をいただきながら、介護サービスの向上に活かしている。現在は、コロナ禍のため、書面での開催が多くなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の職員も参加しており、相談や意見をいただいている。	市からのメールを受け、市のホームページにアクセスすれば、細かいものでも必要な情報を得ることが出来ている。必要な情報等は印刷して職員に回覧周知している。補助金や要介護認申請等で確認等したい事項や相談事があれば、いつでも市の支所や本庁舎に赴いて助言を得るなど、協力関係が出来上がっている。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム りんどう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議などの機会に、普段の支援が拘束になっていないか検討をしている。身体拘束に対する研修も行っており、身体拘束に関する理解に努めている。	身体拘束適正化指針を整備しており、これまで身体拘束の事例はない。身体拘束等適正化委員会を職員会議と抱き合わせて3ヵ月毎に開催し、また研修会は拘束をしないケアをテーマに取り組んでいる。玄関は、コロナ禍による外部からの来所制限との兼ね合いで施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議などの機会に虐待防止の研修を行い、理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議などの機会に権利擁護に関する研修を行い、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはしっかりと説明を行い、分からない事があれば随時対応している。契約内容に改定があった場合には速やかに説明し、対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族と事業所に意見を言いやすい関係性を築けるよう努めている。玄関先には意見箱を設置し、直接言えない方にも対応できるように努めている。いただいた意見は会議で話し合い運営に反映させている。	コロナ禍の現在、家族等の意見や要望を伺う機会が限られているが、通院介助で来訪した際や、毎月1回請求書とともに利用者の様子をお知らせして要望や意見を伺うようにしている。出された要望や意見は、職員会議の協議事項とし、職員間で共有しながら可能な範囲で運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から意見が言いやすい雰囲気作りに努め、常にコミュニケーションを図っている。	日頃から事業所内でのコミュニケーションに意を用いており、相談事があれば職員は事務室に来て話をしたり、日常の業務の中でも管理者は、職員から家電関係の入れ替えや修理、避難経路にスロープ設置の提案があり、具体化している。	

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望がある職員に対しては個人面談を設けている。普段から気軽に相談しやすい雰囲気作りに努めている。個人の生活状況に応じてシフトを調整し、給与についても相談を受け付けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議の際に、内部研修を実施しており、理解を深めている。資格取得が気軽に挑戦できるように費用も支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修には積極的に参加をし、情報交換に努めている。入所申し込みの方の実態調査の際など、他事業所の管理者や相談員の方と情報交換をしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査の際など、複数の職員でお会いし、より多くの情報を得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階から、どういったところに悩んだり、困ったりしているのかを伺い、職員全体で共有し対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	調査で得た情報をもとに、全員で共有し、話し合っている。入所後2週間以内にケアプランを作成するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物畳みなど出来るお手伝いを職員と一緒にしている。誕生会のおやつ盛り付けなど協力してもらっている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時には、利用者の状況を家族さんに連絡し相談している。毎月お便りを作成し日々の様子を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊を気軽にさせていただけるように家族さんに説明を行っている。馴染みの美容室やご飯屋さんにお出かけをしている。	コロナ禍の前は、家族と共に外泊や外食をしたり、毎月の誕生会で馴染みの食堂で食事をしたり、美容室や理容室へ出かけるなど、場所や人との関係性が確保されていた。現在は、感染防止のための制限を設けており、頻繁な交流が困難な状況にあるが、年賀状やハガキが届いたり、ドライブを兼ね家の近くを巡ったりしながら、関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの性格などを考慮し、余暇時間の席などトラブルにならないよう配慮している。年2回ほどレクリエーション大会を実施しており、協力して楽しく交流をしてもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方からの相談などがあった場合は協力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者には積極的に話しかけ、希望や悩みなど傾聴に努めている。	日常の何気ない会話や職員と1対1になった際に利用者の話を聴き取り、その内容を職員間で共有している。言葉で思いを伝えることが困難な方には、職員が声掛けし仕草などから把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査や、申し込み時に情報を得て記録をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルを測り体調に変化が無いかなを観察をしている。必要があれば看護師に連絡し指示を仰いでいる。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所後2週間以内にケアプランをたて共有している。毎月全利用者のカンファレンスを実施し、3か月に1回ケアプランの更新を行っている。	介護プランの更新月に先立って家族の意見や要望を把握するとともに、非常勤看護師の助言や通院時の医師の診察結果をもとに、毎月のカンファレンスを経て計画作成担当者が取りまとめのうえプランを作成している。3か月毎の見直しを基本としているが、利用者の状況に応じて必要な場合には、随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活をケース記録に入力し、申し送りノートにも記入し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の誕生日に家族に声掛けをし、職員と一緒に外出に出かける機会を設けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の時に民生委員からお話を聞いて参考にしている。町内の移動図書館から定期的に本を借りている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の希望を尊重している。日々の記録を細かに記録し情報提供が出来るようにしている。	ほとんどの利用者は、かかりつけ医を受診し、家族が同行している。家族の都合が見つからない場合には、職員が同行している。家族同行の際には、利用者の情報を家族に託し、医師に伝えている。受診結果等は家族から伺って記録し、職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に変化があった場合はすぐに看護師に連絡し指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日々の様子を細かにケースに記録しており、情報提供が出来るようにしている。入院時にも定期的に面会に行き利用者さんの状態を退院後の相談を家族や医療機関と行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、早期に家族と話し合いを行う様に努めている。事業所で重度化した場合の指針を作成しており、入所時の契約で家族に説明している。	入居時に重要事項説明書掲載の「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って、利用者や家族に説明している。利用者が重症化してきた場合には、早い段階で利用者にとってよりよい方法を選択するために話し合っている。これまで看取りの経験は無く、家族は利用者の様子を見て入院希望とする例が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回、応急手当講習を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署員立ち合いのもと、火災時の避難訓練と年1回、事業所独自で土砂災害避難訓練を実施している。訓練時には地域の防災ボランティアの方にも参加してもらっている。	年3回火災と土砂災害を想定した避難訓練を実施している。火災避難訓練は消防署立ち合いのもと2回実施し、訓練では地区の防災会の方々も利用者の見守り等に協力していただいている。避難訓練のうち1回は夜間想定訓練としている。また、市のハザードマップでは危険区域とされていないが、大雨や洪水を想定した訓練も行っている。隣接する特養を避難場所としている。3日分の食糧を備蓄し、燃料、発電機等も備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれの性格を理解し、適切な対応に努めている。	一人一人の人格やプライバシーを損ねないための研修を実施し、意識づけとして職員に資料を配布してその徹底に努めている。トイレ誘導の際には利用者の耳元で小声で話し掛け、介助の時にドアを開けっ放しにしないことや、風呂介助の際にはバスタオルで身体を覆い、失禁の際にはさりげない対応で処理をするなど、利用者の尊厳とプライバシーの確保に努めている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	積極的にコミュニケーションを図り、本人の希望や悩みなど傾聴している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活習慣に合わせた支援を実施している。居室の籠りがちな利用者さんには趣味活動など無理のない範囲でお誘いし意欲の低下に繋がらないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時など着替えを準備する際は一緒に服を選んでいる。パーマや行きつけの美容院がある利用者には家族と相談し希望を叶えられるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が調理をすることを良く思わない利用者も居る為、おやつ作りなど自分の食べるものを一緒に作ったりしている。出来る方にはお盆拭きや食器拭きなどやってもらっている。	献立は、栄養士の資格を持つ法人の社長が立て、食材も社長がまとめて購入している。調理は職員が交代で行い、彩りやバランスを考えた献立となっている。コロナ禍の前は、誕生会の食事として、ファミリーレストランや蕎麦屋、回転寿司が好評であったが、外出が困難になったため、利用者の希望を伺って提供している。季節行事に合わせた献立や時には刺身料理なども提供し、利用者に喜ばれている。利用者はおやつ作りや食器拭き、テーブル拭き等を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成した献立をもとにその方に合わせた内容で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを徹底しており、誤嚥性肺炎の予防に努めている。定期的に歯ブラシの交換や消毒を行っている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄状態を把握し共有している。自立に向け、パットやリハパンの使用など適切な方法を検討している。	ほとんどの利用者は、自分で尿意を感じ自力でトイレで排泄している。現在、布パンツ使用者は1名、パット使用者が1名、5名がリハビリパンツを使用している。誘導が必要な方は、排泄チェック表をもとに誘導し、現状を低下させないよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態を看護師に報告し、便秘薬や水分量を調整している。毎日の食事や運動で便秘を防ぐように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯は決まっている為、その中で、入る順番や希望を聞いて入浴してもらっている。	入浴は週2回とし、使用時間は決めていない。入浴のない日は清拭やシャワー浴で対応している。入浴中は利用者から様々な言葉や思いが話され、職員とコミュニケーションの取れる時間となっている。季節に合わせ菖蒲湯やゆず湯を活用して、楽しんでもらっている。入浴で気分も良くなり、歌をうたう利用者もいる。	職員の負担等を考慮して入浴回数を現在の週2回としているが、改めて、基本とする入浴回数について、現行回数等の適否を含めて検討されることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休みたいときに休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬に説明をまとめ、各自確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入浴日以外の午後は趣味活動や創作品作りを行っている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や体調、職員の状況を見て、散歩やドライブに出かけている。	現在のコロナ禍では、家族との外出も制限をせざるを得ない状況にあるが、法人所有の車2台を利用し人数を分けて、花見、新緑、紅葉、かかし祭り等に出掛けている。また、墓参りや家の様子を見て来たいとの利用者の希望にも応えている。暖かい時期には、事業所の周辺を散歩したり、花壇や畑の手入れをする等、戸外で外気浴が出来るよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物と一緒にいくなど、個々の希望に合わせて家族へ相談しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	随時、電話や手紙のやり取りが出来るようにしている。希望があれば、切手や封筒の準備、投函もお手伝いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事ごとに合わせた装飾を手作りでしている。	共用ホールには、床暖房、空気清浄機を兼ねた加湿器を設置し、夏はエアコンを利用して室内温度を調節している。皆が集うホールには食卓テーブル、ソファ、椅子、テレビが置かれ、利用者が思い思いの場所で寛いでいる。壁面には季節を感じられるよう、職員と一緒に作成した節分の鬼の顔や貼り絵等が飾られ、また、玄関には観葉植物が置かれて、居心地良い空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の性格や相性など考慮し席を配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望があれば使い慣れた家具など持参し使ってもらっている。家族の写真などを飾っている。	入居前に家族と一緒に事業所を見学した上で、居室のレイアウトを考え、利用者の馴染みの調度品を持ち込んでいる。ベッドと収納タンス、タオル掛けが備え付けられ、持ち込んだ仏壇、時計、タンス、小テーブルとともに、家族写真やカレンダーなどが飾られ、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	

令和 2 年度

## 2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	趣味活動などで作成した作品は居室に飾り鑑賞してもらっている。しっかりと動線が取れ、ベッドの配置なども本人の状態に合わせている。		